

The Echoes from the Abyss: The Poems of Gozo Yoshimasu exhibition

ハ
テ
ニ
テ
ウ
タ
ゴ
エ

詩人 吉増剛造 展

2018年

8/11 | 土・祝 |

▶ 9/24 | 月・休 |

*会期中、一部展示替えがあります

休館日: 8月13日(月)・20日(月)・27日(月)
9月3日(月)・10日(月)・18日(火)

開館時間: 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
*毎週金曜は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

入館料: 一般500円(400円)、大学生400円(320円)
高校生・60歳以上250円(200円)
小中学生100円(80円)

* ()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料
* 土・日曜日・祝日及び夏休み期間は小中学生無料
* 毎週金曜日は渋谷区民無料
* 障がい者及び付添の方1名は無料

主催: 渋谷区立松濤美術館
読売新聞社
美術館連絡協議会

協賛: ライオン
大日本印刷
損保ジャパン日本興亜
日本テレビ放送網

記念対談

吉増剛造氏 (詩人)

×

岡野弘彦氏 (歌人)

対談

9月8日(土) 午後2時～(約1時間30分)

* 要入館料 * 定員80名

* 午後1時から地下2階にて整理券を配布します



渋谷区立 松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp>

作家近影 2017年 撮影: 中野愛子

【図版上】多重露光写真 1980～2000年 作家蔵 【図版下】「火ノ刺繍」 2017年 作家蔵

詩人 吉増剛造 展

吉増剛造（よします・ごうぞう 1939—）は、1960年代から現在にいたるまで、日本の現代詩をリードし続けてきました。その活動は、詩をはじめとすることばの領域にとどまらず、写真や映像、造形など多岐にわたり、私たちを魅了し続けています。

常にことばの限界を押し広げてきた吉増の詩は、日本各地、世界各国をめぐり、古今東西、有名無名の人々との交感を重ねる中で綴られてきました。

本展は、「Ⅰ、詩集の彼方へ」「Ⅱ、写真を旅する」「Ⅲ、響かせる手」の三部で構成されます。吉増の各時代の代表的な詩集を柱とし、詩や写真をはじめとする作品群に加えて、関連するさまざまな表現者の作品や資料など約140点を展示することで、半世紀以上におよぶ吉増の活動を辿ります。

現代のみならず、古代の営みにまで遡ってさまざまな対象をとらえ、そこからかつてないビジョンを生み出し続ける吉増の視線、声、手は日常を越えた世界への扉を私たちの前に開くでしょう。

ハテノウタゴエ
誰テノ詩人



図1



図2



図3

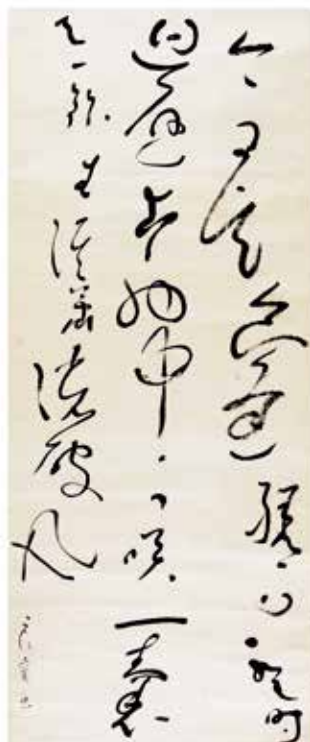


図4



図5



図6

● 記念対談：吉増剛造氏（詩人）× 岡野弘彦氏（歌人）対談

9月8日（土）午後2時～（約1時間30分）

* 無料（要入館料） * 定員80名 * 午後1時から地下2階にて整理券を配布します

● ワークショップ「声の力」

朗読やトークを通じて、「声」や「ことば」の持つ力を体験します。

8月26日（日）午後2時～

講師：吉増剛造氏（詩人）、山根基世氏（フリーアナウンサー）

* 無料（要入館料） * 定員30名（応募多数の場合は抽選）

* 対象年齢は小学生以上（小・中学生は保護者同伴可）

* 往復はがきによる事前申込、締切は8月15日（水）必着

〒・住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数・保護者同伴の場合は保護者氏名をご記入の上、松涛美術館「声の力」係まで1枚のはがきで2名まで申込可能

● 吉増剛造氏（詩人）& 大友良英氏（ギタリスト）によるコラボレーション

日時：9月1日（土）午後2時～（開場午後：1時30分）

* 無料（要入館料） * 定員80名（応募多数の場合は抽選）

* 往復はがきによる事前申込、締切は8月17日（金）必着

〒・住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数をご記入の上、松涛美術館「吉増・大友コラボ」係まで1枚のはがきで2名まで申込可能

● 当館学芸員によるギャラリートーク

8月25日（土）・31日（金）、9月16日（日）午後2時～

* 無料（要入館料） * 事前予約の必要はありません

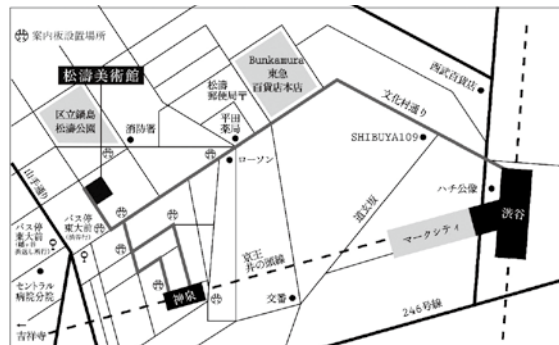
● 館内建築ツアー

8月17日（金）・24日（金）・31日（金）、9月7日（金）・14日（金）・21日（金）

午後6時～6時30分

* 無料（要入館料） * 各回定員20名 * 事前予約の必要はありません

図1: 吉増剛造 『怪物君』原稿 2015年頃 作家蔵
図2: 与謝蕪村 《山水図》 1782年 絹本着色 個人蔵
図3: 吉増剛造 《多重露光写真》 1990-2000年代 作家蔵
図4: 良寛 《今日乞食逢驟雨》 1820年頃 紙本墨書 良寛記念館蔵
図5: 吉増剛造 《火ノ刺繍》 2017年 作家蔵
図6: 加納光於 《桃色の魚座に沿って—吉増剛造のために—》 1974年 千葉市美術館蔵



アクセス

京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

JR・東京メトロ・東急電鉄渋谷駅下車徒歩15分

次回展のご案内

林原美術館所蔵 大名家の能装束と能面

2018年10月6日（土）～11月25日（日）



渋谷区立 松涛美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松涛 2-14-14
TEL 03-3465-9421
http://www.shoto-museum.jp